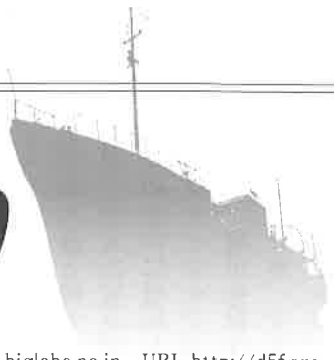


2015.09.01  
No.389  
(9・10月号)

# 福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内  
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail: fukuryumaru@msa.biglobe.nc.jp URL http://d5f.org



暑かった夏、親子の見学会や工作教室も開かれました。連日、夏休みの課題・自由研究などで小中学生、高校生が友達同士で来館、熱心にメモを取る光景がありました。



## 被爆70年、戦後70年 核も戦争もない世界へ巡る八月

テレビ局の調査で、ヒロシマ・ナガサキの原爆投下の日時を答えられた市民は二〇パーセントであったと報じられました。一方で戦争、原爆から遠く隔った時代に、知り学び伝えることへの取り組みや試みも取り上げられていました。

第五福竜丸展示館は、この夏、被爆写真八枚を船首側に展示しました。夏休みの課題のために来館した中学生、高校生はもとより、若い世代からご年配の方まで、長く足を止めて見入る姿が印象的でした。

ラッセルリアインシュタイン宣言六〇年の展示もかなり読みごたえがある分量になりましたが―五枚のタペストリーを丹念にたどる見学者もたくさんいます。「ヒト」として在ること、考えること、うごくこと、六〇年前のラッセルやアインシュタインをはじめ水爆戦争を危惧する先達たちの言葉は、今の時代

を生きる人々に向けられているようです。

ダゲレオタイプⅡ銀板写真家新井卓さんの作品は、トリニティに始まり原爆ドーム、B29ボックスカー、長崎の一時二分の時計、第五福竜丸船体、福島第一原発と核、被ばくをたどる展示。目を凝らし時間をかけて少しづつ視線を移しながら銀の板のピースをたどると、様々な色彩、色合いが現れます。鑑賞者はそこから何を想像するでしょうか。

\*

一〇月一〇日のコンサートへ、たのしみにはしています、との声も寄せられています(関連七面)。九月二三日の久保山忌には、市民グループ、句会、原水爆禁止運動の方々のとりくみと見学会などが予定されます(紹介八面)。久保山記念碑に寄り添うように、愛吉・すずのバラも花を咲かせてほしいと思います。

## ラッセル・アインシュタイン 宣言六〇年記念講演会

ラッセル・アインシュタイン宣言発表から六〇年を迎え、展示館では七月五日に記念講演会を開催しました。講演者は小沼通二さん（世界平和アピール七人委員会）、高原孝生さん（明治学院大学国際平和研究所長）、樋口敏広さん（京都大学）です。講演者の了解のもとに報告の概要を掲載します。文責は編集部です。

### 小沼通二

ラッセル・アインシュタイン宣言60年、その意味を考える

ラッセル・アインシュタイン宣言はビキニ事件の翌年、一九五五年七月九日にイギリスの哲学者であるバートランド・ラッセルら一人の科学者が核兵器と戦争の廃絶が必要だと訴えた宣言です。ラッセルの思いに賛同して、アインシュタインやジョリオ・キュリー、湯川秀樹などイギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、ポーランド、日本のノ

ーベル賞を受賞した著名の科学者たちが個人の資格で参加しました。東西の対立を乗り越え、考え方の違いを超えた人間として発言しようという科学者の集まりです。ソ連の学者も招きたいとの意向もありましたが、残念ながら実現できませんでした。

### 宣言発表までの経緯

宣言は、第五福竜丸の被ばくが元になって作られたのです。福竜丸の乗組員は死の灰を浴びて病気になるましたので、治療のためにも灰の分析を進める必要がありました。福竜丸に付着して運ばれてきた灰の分析を東京大学や静岡大学、大阪市立大学、京都大学などが行い、金沢大学では福竜丸が漁獲したマグロのヒレを使って分析が行われました。その結果、船体に降り注いだ灰には、それまでの考えではあるはずのないウラン<sup>237</sup>が大量に含まれること、放射能の量が非常に多いことを発

見しました。

大阪市立大学の西脇安博士はヨーロッパ各地を周り、これらのグループの死の灰の分析結果を報告しました。これを聞いたイギリスの物理学者ロートブラット博士が、ウラン<sup>237</sup>に着目し福竜丸が遭遇した水爆の構造を突き止めました。水爆は原爆を起爆剤にして、そのエネルギーで核融合を起こさせる仕組みです。この過程ではウラン<sup>237</sup>が生じることがあります。しかし、水爆の外側を覆うケースにウラン<sup>238</sup>が使われており、これが爆発時に、ウラン<sup>237</sup>を含む大量の放射能を生じさせたのです。52、53年に実験された米国やソ連の水爆よりはるかに強力でした。

### 宣言を受けて

日本では、日本学術会議や日本物理学会なども宣言への賛同を表明しました。湯川秀樹や平塚らいてうらによって世界平和アピール七人委員会が発足し、一月に第一回のアピールが出されました。一九五七年には世界中の科学者二人がカナダの漁村パグウォッシュに集い、核兵器の危険性や科学者の社会的責任について話し合いました。

この宣言は、戦争を廃絶し、平和的な手段によって国際紛争を解決していかなければ、人類は絶滅するとの考えに基づいています。この考えは国連憲章にも明記されています。その第七章には「平和に対する脅威、平和の破壊及び侵略行為に関する行動」として、違反が発生した場合にど



小沼通二さん

のようにして戦争を回避するかの方策が書かれています。そしてその最後にやむ終えない場合の措置として自衛権の項目があるのです。それも安保理が動くまでという制限付きですが、現実には拒否権により安保理がなかなか機能しませんでした。だから集団的自衛権によって、有志が好き勝手にやって良いというのは国連の精神に反しています。今、世界には対話が不足しています。意見の異なる人たちとの間で話し合いを持つことが大事です。話し合いの結果、平行線の部分が残るにしても、相手の考えを知っているのと知らないのでは大きな違いです。今年一月に長崎で開催されるパグウォッシュ会議には世界中の科学者が個人の資格で参加し、科学と社会の問題について議論します。対立する国の人同士でも、個人間では率直な話をするものが出来ます。そのような積み重ねによって世の中を変えることが出来るのです。

日本は現在、重大な分かれ道に立っています。一人ひと

(3めんにつづく)

りがこれからの日本の歩みに  
ついて考えなければいけません。  
世界の中で軍事力や経済  
力が強い順に正しいとかよい  
ということではありません。  
小さな国でも尊敬に値する国  
や安心して暮らすことのでき  
る国があります。そのような  
国に学んで、日本がどうした  
らよいのかを考える必要があ  
ります。外交を強化し、戦後  
七〇年間敵を作らずに来た日  
本の伝統を引き継いでいく努  
力をどのようにするのか、考  
えていきましょう。

### 高原 孝生 NPT再検討会議から見 えてくる核の今日的状況

四月二十七日から五月二二日  
まで、ニューヨークの国連本  
部でNPT核拡散防止条約再  
検討会議が開催されました。  
今回の会議では最終文書を探  
択することが出来ませんでした。  
最後の段階で米国、イギ  
リス、カナダが、中東非核兵  
器地帯化についての不一致を  
理由として反対したため  
です。日本の多くのメディアは  
非常にネガティブな見出しで  
報じましたが、決して会議が

決裂したというような破滅的  
な結果ではなかったと多くの  
人が捉えています。採択寸前  
だった最終文書案は公開され  
ており、これを見ると、核軍  
縮ではそれなりの合意ができ  
ていた事が分かります。

#### 核の非人道性

この五年間で核兵器の非人  
道性が国際会議で公然と議論  
されるようになりました。こ  
れは私たちには余りに当然の  
ことですが、実は画期的な変  
化です。前回の合意文書に初  
めて非人道性の観点が「破滅  
的な人道的結末」という表現  
で登場しました。それ以来三  
度の国際会議を経て、今回の  
最終文書案には人道性という  
言葉が何度も出てきます。

西洋の文化圏で人道という  
言葉の持つ意味はとも大き  
く、それだけに核兵器国は非  
人道性の議論を嫌がってきま  
した。非人道的とレッテルを  
貼られた途端、それは誰に対  
しても使ってはいけない兵器  
になります。広島・長崎の国  
に住む私たちはこの非人道性  
という観点をもっと主張すべ  
きです。それが世界から期  
待されてもいます。



右から高原さん、小沼さん、樋口さん

核事故・偶発戦争の可能性  
近年の顕著な傾向として、  
多国間会議へのNGOの参加  
が活発です。NPTでも、N

GOは国連の議場にアクセス  
して各国の外交官にはたらき  
かけ、様々なテーマの勉強会  
を開催します。今回そうした  
場で二つの新たなトピックが  
注目を集めました。

まず偶発的核戦争の危険で  
す。以前から言われていたこ  
とですが、近年、情報公開法  
を使って多数の深刻な事例が  
明るみに出されており、この  
問題に一層の関心が注がれて  
います。二〇一三年に国連が  
九月二六日を核廃絶の日と定  
めたのはご存知でしょうか。  
一九八三年のその日、ソ連の  
早期警戒システムが誤作動を  
起こし核ミサイル発射寸前ま

で行くという出来事がありま  
した。幸い現場の指揮官が誤  
報と判断したおかげで、危う  
く核戦争に至らなかつたので  
す。この事件を扱ったドキュ  
メンタリーも昨年製作され、  
会議中に国連で上映されまし  
た。今回の最終文書案には、  
偶発的な事故により核兵器が  
使用される危険を低減する措  
置について核兵器国は報告せ  
よという項目が、初めて盛り  
込まれています。

#### 核兵器国の世論に

もう一つ、諸国の演説でよ  
く取り上げられたトピック  
は、核保有国が核兵器近代化  
のための研究開発を継続して  
いるという事実です。たとえ  
ばオバマ政権は三〇年後に向  
けて一兆ドルの予算を見越し  
ており、他の核保有国もそれ  
ぞれ開発計画を持っていま  
す。NPT第六条には核兵器  
国は核軍縮に向けて努力する  
義務が明記されていますが  
ら、今の政策は条約違反だ  
と思われませんが、核保有国に改  
善の姿勢はみられません。  
あらためて今回の再検討会  
議ではっきりしたことは、核  
兵器国には核廃絶をする気が

ないということ。そのこ  
とを前提に私たちがすべき  
は、国民に対する直接のはた  
らきかけです。

核兵器国の中にも良心的に  
取り組んでいる人が沢山いる  
のですが、まだまだ広島・長  
崎を知らない人が多いのも事  
実です。現在、ワシントンの  
アメリカン大学で「原爆の凶」  
展が催されています。広島・  
長崎の被爆資料も展示され、  
訪れた人々は被爆地の状況を  
学んだ上で丸木位里・俊夫妻  
の絵を見ます。注目すべきは  
朝鮮人被爆者を描いた（から  
す）、そして広島で犠牲にな  
った米兵捕虜を描いた（米兵  
捕虜の死）も展示に含まれて  
いる点です。被害にあったの  
は日本人だけではないという  
明白なメッセージです。被爆  
死した米兵がいたということ  
をたいのアメリカ人は知  
りません。  
さいごに、核軍縮を訴える  
場はNPT再検討会議だけで  
はありません。毎年秋に開か  
れる国連総会でもかならず審  
議され、日本政府の姿勢も問  
われます。核保有国そして日  
（4めんにつづく）

本を含め「核の傘」に執着している諸国の世論を、変えなくてはなりません。そこに対して働きかけるチャンスは、いつもあるのです。

### 樋口敏広

グローバル・フォールアウト

—地球環境問題の先駆け

私たちの地球は四六億年の歴史で様々な自然現象によって絶えず変化を続けてきました。しかし人類は誕生以来、地球環境に多大なる影響を及ぼし、地球の急激な変化の担い手となってきました。

地質学者たちが「人類の時代」(アンソロポセン)と呼ぶ、私たち人類を主役としたこの新しい時代区分は、原水爆実験により全世界に降り注いだ放射性降下物(グローバル・フォールアウト)をその一つの指標として地層中に刻まれています。

### 規模のパラドックス

米ソ英仏中の五カ国は一九四五年から一九八〇年までの三五年間で五〇〇回以上の大気圏内核実験を行いました。これにより生じた放射性物質は風により運ばれ地球規模の

汚染をもたらしました。しかし、大量の放射性物質は弱まりながら薄く広がり、長い時間をかけて少しずつ放射線を出すため、ある特定の場所、

時間での被ばく線量は非常に小さくなります。そのため人類全体に与える影響の大きさに関わらず、その深刻さが理解されにくいという問題が起きます。これを「規模のパラドックス」といいます。

ビキニ水爆事件直後、米原子力委員会は過去の核実験により米国のある地域の年間の自然放射線量が約10マイクロシーベルト増加したことを認めましたが、それは「人間や動植物に害となる水準よりもはるかに低い」と断言していました。これに対して遺伝学者たちは被ばく線量と遺伝障害の関係に詳しい値は存在しないとする説を唱えました。よりわかりやすいガンの例を挙げると、国際放射線防護委員会によると10マイクロシーベルトの被ばくによって一人ひとりがガンになる確率は2万分の1増加すると考えられます。これを当時の世界人口に当てはめると、二七億人の

うち約一五万人がガンになると理論的に予測されます。遺伝学者たちは現在と将来の人類全体に対する影響に警鐘を鳴らしたのです。

しかし、グローバル・フォールアウト程度の被ばくであれば影響は全くないと考える人々や、他の身近な危険に比べれば些細な事であるとすると人々もいました。またその他の要因による発ガンのリスクの方が圧倒的に高く、フォールアウトによる被害を立証することも不可能でした。そして核抑止を肯定する人々は、フォールアウトの危険があるとしても世界平和のための必要悪と考えました。

### ローカルな視点

グローバル・フォールアウトは地球全体へ広がりますが、誰もが同じように危険に晒されるわけではありません。様々な要因によってある地域やある人々に対してより大きな危険をもたらします。例えばカルシウムと似ているストロンチウム90は牛乳に多く含まれるため、大人よりも子どもがその危険にさらされます。カルシウム量当りです

らに汚染されていた玄米を主食とする人々は、牛乳で育つ人々よりもグローバル・フォールアウトの影響をより大きく受けることになります。

こうしたことから神学者で医者アルベルト・シュバイツァーは一九五七年五月、全世界に向けたラジオ放送で、たとえ核保有国がグローバル・フォールアウトの危険を核抑止のための必要悪として正当化するとしても、核抑止の恩恵を受けない世界の他の国の人びとや未来の世代を傷つけることはヒューマニズムの精神に反するとし、核実験の即時禁止を求めました。シュバイツァーは他の危険と比較して相対的な影響の大小を考えるのではなく、正当な対価や同意のないまま世界中の人びとを危険にさらすことを問題視したのです。

### グローバルな視点

人類全体を捉えるグローバルな視点と、より危険に晒される人びとに注目するローカルな視点、これら二つの視点を併せ持つ「グローバル」な見方によってグローバル・フォールアウトの危険性は次第

に認知されるようになりまし。この認識の変化に呼応して世界各国の市民と科学者による運動が核実験禁止を求め世論を先導しました。例えば科学者は一九五七年七月に東西の科学者が一同につどいパグウォッシュ会議が開かれました。市民も人道的な観点から核実験禁止を求め立ち上がりました。こうした動きが米英ソ三カ国による核実験禁止交渉を後押しし、政治的行き詰まりを打開する手がかりとなりました。

### 「人類の時代」を生きる

私たちはグローバル・フォールアウトの経験から何を学ぶべきでしょうか。ラッセル「アインシュタイン宣言は人類の立場から水爆戦争の危険を考えるべきであると訴えました。私たちは現存する脅威を漠然と捉えるのではなく、社会的に弱い人々や子どもたちがより大きな危険にさらされていることを理解する必要があるのでしよう。「グローバル」な視点に立って人類が直面する脅威に立ち向かうことが必要ではないでしょうか。

## 【語る】モニュメント／非モニュメント

### 記憶の縁（よすが）

——アーティスト・トークより——

開催中の新井卓写真展「竜の鱗（うろこ）アトミックエイジのモニュメント」の関連企画で、八月一日、アーティストの竹田信平さんと新井さんとが対談しました。お盆休みの土曜日ということもあり、夏休みの自由研究にきた小学生の家族たちも足を止め、お二人のトークに耳を傾けていました。このイベントには四七名が参加しました。（文責編集部）

#### アンチモニュメント

新井さんがクロストークの相手に指名したのはアーティストの竹田信平さん。同世代であり、新井作品が「モニュメント」と位置づけられているのに対比するかのよう「アンチモニュメント」と題していることなどから、この機会にぜひ話したいということとで実現しました。

竹田さんはメキシコとドイツを拠点に作家活動をするなかで、モニュメントに対する懐疑心が生まれたといいます。南北アメリカ在住の被爆者の証言を聞き取り、その声紋を書き写すアクションと映像という表現を構築し（a線崩壊」「β線崩壊」シリーズ）、



竹田信平さん(左)と新井卓さん

アンチモニュメントと位置づけています。これまで作られてきたイメージを壊して新しいものを作る姿勢とプロセスが、未来を照らし出す道しるべとなり得るし、それがアートの力だと述べました。被爆者の証言を題材にした作品が、被爆70年の長崎県立美術館等でも展示されています。

#### 境界線と危険性

竹田 新井さんのB29の写真はすごくきれいだ。記憶の美化と受け取られかねない危うさがある気がします。

新井 マンハッタンプロジェクトの中心人物のR・オッペンハイマーのカリスマ性を考えると、そのプロフェッショナルな部分に惹かれる自分があります。その一方でカボチャを高いところから落とす（\*）という行為を、テキサス市民が「みんなががんばろう」と協力してくれた。美しいものポジティブなもの醜いもの破壊的なものの境界線はないのではないのでしょうか。

竹田 被害者と加害者の境界はいつでも反転しうろと思うんです。被爆者の証言からさまざまなもの想像するとき、想像できるものは創造できると気づく。それは極論すれば自分が原爆を落とす側にも立つ可能性があるということでもあります。

新井 「爆心地を見たものは誰もいません（丸木俊）」というように、究極の当事者は爆心で亡くなってしまった人ということになってしまふ。

記憶の当事者しか表現しえないのであれば表現は存在しないということになる。記憶を持たない者も、知ること感情が多少なりとも動けばもはや、無関係者ではない。そもそもこの問いの立て方は無意味かもしれないですね。

竹田 どのような姿勢、哲学、観点で表現しているかを常にしっかりとさせておかないと「当事者ではないというしるめたさ」に行き詰ってしまうのだと思います。

#### アートの文脈

竹田 「きれい」な写真が第五福竜丸の下にあるということとは、捉え方もさまざま、危険性もはらみます。

新井 それは歴史的な文脈から外れて見るからではないでしょうか。福竜丸の下で福竜丸の写真を置いたのも、歴史的・政治的なコンテキスト（文脈）をはずして、剥き出しの表面を見るようにしたかったからなんです。

竹田 「記憶」についていうと、自分たちはあまりにも多くのことを忘れて生きていると実感します。「忘れてはい

けない」というモニュメンタライズされた言葉がある一方で、忘却は必然。どう忘れるかも見極める必要があります。その意味で、コンテキストをはずす、省くことを僕は重要視していますし、頭で考えがちなこの時代に、どうしたら感性に届くかを考えるのもアートの役割といえます。

新井 それぞれの立ち居地いろいろな見方をしてもらえたらいいと思うし、見る人のほうも問われるということですね。

\*カボチャ：新井卓監督短編映画『49PUNKINS』模倣原爆パンプキンに題材をとっている。会期中、館内で随時上映中。

\* 新井卓写真集『Monuments』160頁カラー（9千円＋税）9月1日発売予定  
\*竹田信平さんが記録した被爆者の証言は長編ドキュメンタリー映画『ヒロシマ・ナガサキ・ダウンロード』のほか、国連軍縮局と共同で開設したウェブサイトでも見ることができず。www.hiroshima-nagasaki.com/



8月5日、広島にて「被爆者と市民のつどい」で発言する大学生（提供・被団協）

被爆七〇年の夏、連載の筆を広島・長崎にのばすことにしました。一〇年ぶりに訪ねた広島。八月六日の朝、栗原淑江さん（ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会）、工藤雅子さん（日本被団協事務局）と連れ立ち、元安川の川風がまだまだ残る七時過ぎ、市民の列に並んで一輪の花を慰霊碑に手向けました。

連載②

## 晴れた日に 雨の日に

山村茂雄

空は広く晴れ、式典会場に張られたテント内にはすでに招待された被爆者の方々が着席され、主催者席には松井一実市長の姿も見られました。

会場周辺の青葉繁る木陰に配置されたモニターテレビ前のベンチから「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」に「参列」しました。市民ボランティアが向いてのおしほり接待も受けることができました。座っていたベンチが公園内の連絡路にあたっていたのでしようか、岩垂弘さん、豊崎博光さんから声をかけられました。

\*

八時一五分全員黙とう。鳴らされ響く平和の鐘、つつまれる静寂。被爆七〇年、年々に積まれる死者の数、および死者への思いがめぐります。

「スベテアツタコトカアリエタコトナノカ／パット剥ギトツテシマッタ アトノセカイ」原民喜の連詩「原爆小景」の一節。民喜はその終章を「永遠のみどり」と題し「ヒロシマのデルタに／若葉うづまけ 死と焔の記憶に／よき折よ こもれ」「ヒロシマのデルタに／若葉したたれ」と

記し、悲しみの連鎖をぬぐうように望みを託します。いま平和公園のデルタは豊かにみどりをしたたらせています。

\*

この日の「平和宣言」で松井市長は、原爆で奪われた命や人びとの営み、差別、偏見の苦しみに触れ「まどうてくれ」の言葉を引き「これは故郷や家族、そして身も心も元通りにしてほしいという被爆者の悲痛な叫びです」と述べました。日本被団協の初代事務局長藤居平一さん（広島被団協初代事務局長）も事あるごとに口にしていた言葉でした。親しく藤井さんが話していたこの言葉には市長が述べた意味に加え「つぐない」が含まれています。「過ちをつぐなう」のがだれかは明らかです。

\*

木陰をたどるようにして公園内六〇余の記念像や慰霊碑のいくつかを廻りました。公園の正面は「嵐の中の母子」像。説明文に建立当初の趣旨が省かれていたようにで気になりました（この作品を本郷新さんが広島市民に寄贈す



嵐の中の母子像

る経緯は、連載25で紹介)。多くの少年・少女が訪れていた原爆の子の像、原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑、マルセル・ジュノウ博士記念碑、峠三吉詩碑などを巡り、平和大橋を渡りました。

橋のたもとで「被爆七〇年行動の時」「平和宣言・核廃絶の実現訴え」を大見出しに掲げた中国新聞の「特報」が配られていました。「焦土から立ち上がった いま117万人のにぎわい」との特集も組まれていました。にぎわい〴〵にあわせて記憶しておくべきは広島市の被爆者（手帳所持者）五万八九三三名（三月末）の数でもあると思います。解説欄では、平均年齢八〇歳を超える被爆者の「体験継承」が課題となっているこ

とが取り上げられていました。「被爆体験の継承」の問題は、前日の五日、日本被団協主催の「核兵器のない世界のため被爆者と市民のつどい」でも中心的なテーマでした。日本被団協田中熙巳事務局長の「七〇年の時を刻んで被爆者の死と生のたたかい」の報告と提案を受け、新しい担い手として若い世代が決意を述べ、会場からの被爆体験を語り継ぐ若者の取り組みの発言に拍手が送られていました。

\*

昼日中は暑さを避け、広島市現代美術館に「ライフワークー『原爆の絵』からたどる生きる」と、作ることにする生きたこと、作ること」の展覧に出かけました。比治山の丘にあがるのは、ここにあったABCに調査資料公開を申し入れに行つて以来です。再会した被爆者の描いた絵、香月泰男、宮崎進、大道あや、四国五郎など体験が色濃く反映する作品が並び若い作家への目配りに好感しました。併催のコレクション展は「われらの狂気を生き延びる道を教えよ」と題され「ヒロ

（アめん下につづく）

## 福竜丸コンサート

## 三人の音楽作品

一〇月一〇日の第五福竜丸コンサートのプログラムをみて三人の作曲家の名前が目を開く。バルトック、ヤナーチェク、伊福部昭。いづれも故国、郷里の民俗音楽を採集し新たな創造へと昇華された作品を創った音楽家としてつとに名高い。



昨年10月、第五福竜丸でのコンサート、左端が戸島さや野さん

の民族音楽の採集を精力的にすすめたバルトック。その民俗舞曲は、ルーマニア各地の民謡にあらたな生命を吹き込んだといわれ、短い六曲からなる。ピアノ曲として書かれケーセイによりヴァイオリンとピアノに編曲された。

ヤナーチェク唯一のヴァイオリン・ソナタは、東モラヴィアの東洋的な民族音楽の語

## 福竜丸との出会いのなかで

## 戸島さや野

はじめて第五福竜丸展示館をおとずれたのは二〇一二年の春でした。その前日、三軒茶屋にあるKENというスペースでピアノニストの崔善愛(チェ・ソンエ)さんのコンサートを聴きに行った私は、そこで第五福竜丸展示館の安田さんにはじめてお会いしました。

「明日、ぼくがつとめてい

法が取り入れられ、祖国解放への期待も込められているという。四楽章からなる。両作品ともハンガリー帝国のもとにおかれていた一九二〇年ごろに書かれている。

伊福部昭は、北海道で生まれ育ち、アイヌやギリヤーク、ウイльтаなどの民族の音楽を取り入れた作品で名高い。唯一のヴァイオリンソナタ(一九八五年)は、聴き手をぐいぐい引き寄せる繰り返しの旋律が魅力の一、三楽章、美しく優しい二楽章からなり名品といわれる。(編集部)

はすっかり身近な存在になりました。とはいえ、既存の音楽と福竜丸をつなげるのはなかなか難しいものです。

昨年一〇月、崔善愛さんたちとともに演奏した林光さんの「ラッキードラゴン・クインテット」のように、福竜丸との直接的な関係があるヴァイオリン作品は、私の知る限りでは、他にありません。ですがそんななか、映画「ゴジラ」や新藤兼人監督「原爆の子」の音楽で知られる伊福部昭さんの「ヴァイオリンとピアノのためのソナタ」に出会いました。福竜丸と直接的な関わりこそありませんが、大変力強い推進力を持ち、魅力的な作品です。

一〇月一〇日の福竜丸コンサートでは、共演者として、私が尊敬してやまない音楽家、高橋悠治さんをお迎えし、福竜丸が引き合わせてくれたこの作品を演奏します。

Meet Fukuryu Maru

このコンサートが、みなさまと福竜丸との新しい出会いの場になることを願っています(とじま さやの/ヴァイオリニスト)。

シマ」をキーワードにして所蔵作品が選ばれていました

\*

比治山を下り原爆ドームに向かい鶴見橋を渡ります。あの日、焼かれる母を残したままに避難せざるを得なかった一六歳の岩佐幹三さん(日本被団協代表委員)が野宿したのはこの橋と比治山橋の間でした。街、街に、その地その川辺に、被爆の記憶が刻まれています。

陽が傾き、ドーム沿いの川辺に「慰霊灯籠流し」の人々が集まり始めていました。

原爆ドームに隣り合うように立つ原民喜詩碑。刻む詩「碑銘」、「崩れ墜つ 天地のまなか／一輪の花の幻」、寄りそって迫るものがあります。民喜が「幻」とみた「一輪の花」。「花の幻」に結ぶ民喜の「望み」へと思いが巡ります。

(第五福竜丸平和協会顧問)

被爆70年記念のつどい  
広島・長崎はなんだったのか?  
—いまを戦前にしないために—

\*10月17日(土) 午後1時開会\*  
日比谷公会堂

日本被団協をはじめ実行委員会主催

## オーストリア公使来館

7月12日、ピーター・シュトゥラー・オーストリア公使とジョン・キム 明治学院大学教授ら平和学の研究者6人が高原孝生さん（協会評議員）の案内で来館しました。館内では川崎昭一郎代表理事が歓迎の挨拶を述べ説明しました。

オーストリア政府は、核の非人道性、禁止条約実現にむけて積極的に活動しています。公使は、「離日前にぜひ訪れたいと思っていた、大変興味深い展示館です」とメッセージを寄せました。



## 全国で福竜丸展 各地から来館者

今年も全国各地で第五福竜丸・ビキニ事件をテーマにした展示会やステージが取り組まれています。西宮市、浦安市、板橋区でパネルが展示されたほか、府中市、静岡「戦争と静岡」展では大規模な展示がおこなわれ、日めくりカレンダー、ガイガーカウンター、乗組員に寄せられた手紙など関連する現物資料や大石又七さん制作の模型船などが展示されました。役員・学芸員の講演を聴いて、展示館を訪れる人も全国各地から相次いでいます。

山梨では市民憲法ミュージカル「鯨波（とき）の声」（脚本・山谷典子）で第五福竜丸が題材となり、出演者や関係者が展示館を訪れ、作品への思いを深めていました。また第五福竜丸平和協会、駐日マーシャル大使館も後援した演劇「ふるさとにはボイズンの島」（脚本・武本匡弘）の出演者や、吹奏

楽「ラッキー・ドラゴンの記憶」（福島弘和作曲）を演奏する中学、高校の吹奏楽部員など、さまざまな作品に関わった人たちが来館しました。



## 反核マラソン 福島から広島へ

東京から広島、長崎に向けて1500km走る反核・平和マラソンは、被爆70年の今夏、福島～東京もつなぎ1800kmを走破しました。7月25日福島を出発したランナーは翌26日300kmを走り繋ぎ夢の島に到着。27日には広島に向けて第五福竜丸展示館

の前からスタートしました。



## 来年は開館40年です！

2016年6月に第五福竜丸展示館は開館40年を迎えます。来館される方も二世、三世にわたっていることも多く、若い父親が子どもを肩車しながら「お父さんが小学生のときに、ここに来たんだよ」と語りかける風景も頻繁に見られるようになりました。第五福竜丸展示館にまつわるエピソードや思い出、写真などを募集します。（詳細要項は次号に掲載）ぜひお力添えください。

## 9月23日久保山忌の催し

9月23日は第五福竜丸無線長・久保山愛吉さんの命日です

### ◇第35回久保山忌句会

- ・午前10時半より 久保山碑献花・吟行
- ・午後1時半より句会 会場 東京スポーツ文化館
- ミニ講演「核兵器の今日的状況について」安田和也（第五福竜丸平和協会）

### ◇平和を語る第五福竜丸の集い

午前10時半～午後3時 朗読「わたしがちいさかったときに」「ここが家だ」紙芝居「あかふん先生」「トビウオのぼうやはびょうきです」トランペット、ジャワガムランの演奏、南京玉すだれなど。第五福竜丸ボランティアの会は午後の部（1時半から）に「ラッセル＝アインシュタイン宣言」の朗読パフォーマンスで出演します。

### ◇東京原水協ほか一第29回 第五福竜丸のつどい

- ・第1部＝午後1時より 第五福竜丸見学会・久保山記念碑献花など
- ・第2部＝午後2時半より学習会（東京スポーツ文化館）
- 講演「ビキニ61年、広島・長崎被爆70年の時を刻んで、被爆者のたたかい」お話しは、山本英典東友会理事

### ◇築地にマグロ塚を作る会9・23のつどい

- ・時間と場所 夢の島マリーナ、13時：30分より
- ・おもな内容：大石又七さんの近況報告、石川逸子さんの詩朗読、築地移転とマグロ塚・記念プレートの今後について、ほか